

OKIならではの技術や強みを活かして、社会課題の解決に取り組み、新しい価値を提供していきます。



株主のみなさまには平素よりOKIグループの経営に対しまして多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、今夏以降の台風などによる豪雨、暴風雨で被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興を、グループ社員一同心よりお祈りいたします。

これからの社会においては、デジタル化の加速によってIoT端末が飛躍的に拡大し、ネットワーク上のデータ量は爆発的に増加することが想定されます。このような状況の下で安全で快適なサービスを維持するには、クラウド側の負荷とリスクを軽減する必要があります。すなわち、エッジ領域において高速でリアルタイムな処理を実現することです。加えて、今後IoTの進展とともに拡大する端末は、パーソナル端末から産業用途や医療向けが中心に変わっていくと考えられます。

OKIは、特長ある端末を製造する独自の技術や、ネットワーク、センシングの技術をベースに、エッジ領域に特化して長きにわたって社会インフラを支えてまいりました。こうしたビジネスの蓄積と強みのある技術を活かして、新しい商品・サービスを提供し、お客様との共創を通じてこれからの社会のニーズに確実に応えてまいります。

2019年12月

代表取締役社長 鎌上 信也

2019年度第2四半期累計期間業績

売上高

前年同期 1,936億円
 当期 2,184億円
 通期予想値 4,600億円

営業利益

前年同期 8億円
 当期 52億円
 通期予想値 185億円

親会社株主に 帰属する 四半期 純利益

前年同期 -26億円
 当期 41億円
 通期予想値 140億円



詳細はこちらから

第2四半期累計 業績の ポイント

- 情報通信事業は、社会インフラおよびネットワーク関連案件の増加により順調
- メカトロシステム事業は、前年に行った構造改革の効果により前年比利益良化
- プリンター事業は為替影響、EMS事業はFA・半導体関連売上減により前年比減収減益

第2四半期累計期間の売上高は、情報通信事業における大型案件および工事進行基準の適用範囲の拡大により前年比増収となりました。営業利益は、情報通信事業の増収やメカトロシステム事業にて前年に行った事業構造改革の効果により増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、ブラジル子会社の事業譲渡に関する事業構造改善費用を特別損失として計上したものの、増収の効果に加えて資産等の売却に伴う特別利益を計上したことなどから、前年比で大きく改善しました。